

校訓「不撓不屈」 原校区小中一貫教育目標「自立と共生」
学校教育目標「自芯と優情を育み 自ら行動できる生徒」



しお ざい
潮 盛



沼津市立原中学校

学校だより NO.3

令和7年6月3日

文責：中嶋記恵子

学校教育目標「自芯と優情を育み、自ら行動できる生徒」

～校外学習：修学旅行・高原教室・遠足を終えて～

梅雨入りも近くなり、しっとりとした季節の訪れを感じる今日この頃です。正岡子規の俳句「あじさいや一かたまりの露の音」にも表されるように、梅雨の季節は紫陽花の彩りや露のきらめきが美しい時期です。

5月は三学年ともに校外学習の行事がありました。それぞれの行事を通じて、学校での学びとは異なる実践的で豊かな経験を積むことができました。学校教育目標の実現に向けて、生徒たちは大きく成長しました。行事の成功は、ひとえに保護者の皆様の教育活動への御理解と御協力のおかげです。心より感謝申し上げます。

これからも自然の移り変わりを感じながら、子供たちが学校生活を楽しみ、さらに成長していけるよう努めてまいります。引き続き、御支援のほどよろしくお願いいたします。



3年生 修学旅行 奈良・京都方面 5月13日～5月15日(2泊3日)

3日目…全クラス 法隆寺・薬師寺・東大寺

2日目…クラス別研修(北野天満宮、金閣寺、龍安寺、天龍寺、伏見稻荷大社、清水寺、嵐山など)

3日目…班別タクシー研修

生徒の感想・
振り返り 敬称略

*修学旅行の経験を今後どのように生かしていきますか？(学んだことの中から抜粋)

- ・班で行動することで、観光地を学ぶ楽しさを実感した。「仲間」と一緒だと学ぶ意欲が高まった。学ぶことだけでなく、これからある行事にもクラスの仲間全員で頑張る意欲を高めたい。(実行委員長：原健晋)
- ・集団行動をする際、今回の修学旅行では、特に「時間を守ることの大切さ」を学んだ。これからも時間の意識を高め、決まりを守る生活をしていきたい。(副実行委員：眞島百杏)
- ・外国人と交流できるチャンスがあった。話しかけてみると意外と会話できるということが分かった。今後、困っている外国の方がいたら、積極的に声をかけていきたい。(副実行委員：小畑昇己)
- ・京都の歴史について学べ、楽しむこともできた。自分の会計の仕事もしっかりでき、一つの仕事の大切さを実感できた。これからも自分自身の仕事、役割に責任持って、メリハリをつけて行動していきたい。(副実行委員：土屋実々)



スローガン「楽学両道 ～原中生と千年の息吹 思い出の1ページを～」

2年生 高原教室 紅葉台キャンプ場(河口湖) 5月13日~5月14日(1泊2日)

スローガン「学友楽然」(グループ活動の難しさや大切さを学び、自然に触れ合う楽しさを知る)

今年から1泊2日となりましたが、天候にも恵まれ、かまどでの食事作り(夜:カレー、朝:カートンドック)、キャンプファイヤー、スタンプなど、自然の中で仲間と共に大いに学べた高原教室となりました。

他県、山、湖、バンガロー、かまど、寝具...どこを見ても新鮮なものばかり。それは、驚きであったり、不安であったり、緊張であったりと自分が成長できる材料であった。それらを友達とあれこれ工夫していくうちに完成形に近づいていくと、大きな達成感を得られる。この達成できた経験値を次に生かしたい。(長橋羽咲)



1年生 遠足(地域学習) 原中-千本浜公園(往復14km) 5月14日

2・3年が出かけている5月14日、1年生は遠足を実施、原中と千本浜公園の往復14キロを完歩しました。この遠足は、歴史ある千本地区について学ぶ地域学習(沼津)を兼ねての遠足です。

事前学習として、千本松原、明石海人、若山牧水、井上靖、第2放水路について調べ、班ごとスライドにまとめ発表しました。

当日は、千本浜公園で昼食後、千本浜公園にて流木や石を用いてお題に沿った造形大会を実施するなど、レクリエーションもありました。

千本浜公園には、三人の有名な歌人の歌碑がありました。それぞれの一番有名な歌が書かれていました。石の造形では、お題の「みかん」を造るために、オレンジ色の石を班のみんなで協力して探したり、普通の石に葉っぱをこすって緑色にしたりするなど、工夫を重ねて上手に造ることができてよかったです。歩く距離が思っていたより長くて、とても疲れたけれど、友達と話したり、みんなで一つのものつくったりすることができて楽しかったです。(増田椋乃)



5月30日 「はごろも『夢』教育講演会」実施

講師:株式会社サンリ能力開発研究室 室長 白井博文 氏

演題:「夢の実現に向けて」~金メダルから学ぶ 最強メンタルの作り方~



夢の実現に必要な要素「ワクワクする夢を持つ」「夢を語り合う友を持つ」「夢を支え続けてくれる友を持つ」

白井氏は、夢の実現には「他喜力(たきりよく)」も大切な要素だと述べました。誰かのために、誰かを喜ばせるためにという目的があることは、目標よりも強い。

また、「脳は出力を信じる」という考え方も紹介され、脳は口にしたことを記憶する、脳はその行動を信じる。だからこそ、「思いよりもまず言葉を変える」ことが大事であるとアドバイスがあり、ポジティブな言葉を使うことで、心の持ち方や行動が変わることを強調されました。

最後に、ファーストペンギンの話を出し、「組織はたった1割の人がプラス思考であれば変えられる」との言葉とともによりよい原中の創造へのエールをくださいました。「顔晴っていこう!」

※「顔晴る(がんばる)」白井さんから教えていただいた言葉